

令和元年「彩の会」秋の例会報告

里でも紅葉便りが聞かれる12月4日（水）、安城市にある「丈山苑」にて、写真の会「彩の会」の秋の撮影会が開催された。今回は6名の参加を得て、午前9時半にJR安城駅に集合する。駅で幹事さんの説明を聞いた後タクシーで「丈山苑」に向かう。

丈山苑は、江戸時代初期の多才な文化人であった「石川丈山」の生誕地である安城市が、京都にある詩仙堂を再現して作ったものである。丈山は後半生を京都に詩仙堂を立てて過ごしたことで知られている。丈山苑には詩仙閣を中心にして回遊式池泉庭園などが配置され、丈山の銅像や有名な「富士山」の漢詩の句碑などが点在している。紅葉した庭園を拝観しながらお抹茶を頂き、ガイドさんの説明を聞く。その後、カメラを片手に撮影ポイントを求めて三々五々に苑内を散策する。ちょうど苑内のモミジの紅葉が美しく、11月下旬から12月中旬頃までは楽しめるそうである。回遊式の庭園の池面に映る紅葉も美しい。詩仙閣の2階には展望台があり、丸窓から見下ろす紅葉もきれいである。

全員で記念写真を撮った後、11時半頃丈山苑を後に安城デンパークへ行き、レストランで昼食をしながら旧交を温める。食事後、各人が持ち寄った自慢の作品を並べて恒例の合評会を開く。旅行に行ったときや山に登ったときに撮った写真など自慢の作品が並ぶ。

午後2時半ごろまで合評会を行った後タクシーで安城駅まで戻り、また来春の例会での再会を期して解散する。

【参加者】高澤、小木曾、佐藤、富田、都築、鈴木（敬称略）

（鈴木 記）



（丈山苑前にて全員で記念撮影）



(園内の紅葉が美しい)



(回遊式池泉庭園に垂れ下がる紅葉)



(石川丈山「富士山」の漢詩碑)



(2階の丸窓から庭園を望む)



(例会風景)



(自慢の作品の合評会)